

# 経営協議会報

総務部総務課

日 時 平成26年3月14日（金）13：30～16：50

## 審議事項

### (1) 平成26年度年度計画について

西田理事から、平成26年度年度計画（案）について、第二期中期目標・中期計画の変更並びに平成26年度に係る重点的な事項に関し、資料に基づき説明があった。引き続き、今後、教育研究評議会及び役員会に諮った上で、文部科学省へ提出する予定である旨の説明があった。

### (2) 役員及び役員経験者の退職手当に係る業績勘案率について

本事項の審議に入る前に、関係者退席の上、西川理事から、宮城元理事及び小池監事の役員退職手当に係る業績勘案率について、資料に基づき説明があり、審議の結果、業績勘案率を、100/100とすることが了承された。

### (3) 国立大学法人琉球大学職員退職手当規程の一部改正について

### (4) 国立大学法人琉球大学役員退職手当規程の一部改正について

### (5) 国立大学法人琉球大学非常勤職員（フルタイム職員）年度一時金規程の一部改正について

西川理事から、(3)から(5)の審議事項について、資料に基づきそれぞれ説明があり、審議の結果、原案どおり了承された。

### (6) 国立大学法人琉球大学職員給与規程の一部改正について

### (7) 国立大学法人琉球大学非常勤職員給与規程の一部改正について

西川理事から、(6)及び(7)の審議事項について、資料に基づきそれぞれ説明があり、審議の結果、原案どおり了承された。

### (8) 国立大学法人琉球大学料金規程の一部改正について

西川理事から、国立大学法人琉球大学料金規程の一部改正について、資料に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり了承された。

### (9) 国立大学法人琉球大学寄附金取扱規程の一部改正について

西川理事から、国立大学法人琉球大学寄附金取扱規程の一部改正について、資料に基づき説明があり、審議の結果、了承された。

### (10) 平成26年度年度計画予算について

西川理事から、平成26年度年度計画予算について、資料に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり了承された。

なお、審議に当たって、委員から主に次のような発言があった。

・学生納付金の収入減については、議題11の資料で、休学者の増加によるものとなっているが、休学者は、復学することが前提なので、それほど差が出ないのではないかと。休学者が復学しないという理由がどこにあるかということ、大学として分析していただきたい。

- ・各部局別の人件費のデータを見ると、一部学部の事務補佐員が飛び抜けて多い。これは、大学として、適正な人員配置をしているのか疑問に感じる。こういう厳しい時代に、人件費が適正配分されているかどうか、大学としてチェックする必要があると思う。
- ・産学連携等の研究収入で、工学部が少ないが、どういう理由か。一般の大学では、シーズを持っている医学部、工学部が多いので、不思議に思う。
- ・プロジェクト研究費が減っている。今回、新規が2つ採択されているが、こういう大型のプロジェクト経費は途切れることなく、常に同じ数くらい取れるように、大学として戦略的に考えていく必要がある。是非、大型のプロジェクト経費を取れるように考慮していただきたい。
- ・総合大学の場合、医学部の附属病院があることで、人件費の割合がかなり大きい。人件費を算出するときに病院と分けたものにしないと、はっきりとした数字はわからない。
- ・大学の概要で、医学部の非常勤の事務・技術系の職員は、全体の60%強あるが、40%弱はその他の学部の非常勤職員となっており、後者の非常勤職員が多いのではないか。

#### (11) 平成25年度学内補正予算について

西川理事から、平成25年度学内補正予算について、資料に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり了承された。

なお、審議に当たって、委員から主に次のような発言があった。

- ・理工学研究科は、学生を多く入学させて収入をあげることは可能だが、文部科学省からは「定員は守るように」という指導を受けている。たとえば、他の研究科で仮に定員を満たしていないところがあるのであれば、その対策も練らなければならない。そのあたりもご検討いただきたい。

## 報告事項

#### (1) 中期目標・中期計画の変更について

西田理事から、中期目標・中期計画の変更について、資料に基づき報告があった。

#### (2) 平成24年度に係る業務の実績に関する評価結果について

石原副学長から、平成24年度に係る業務の実績に関する評価結果について、資料に基づき報告があった。

#### (3) 国立大学改革プランについて

学長から、国立大学改革プランについて、資料に基づき報告があった。

#### (4) ミッションの再定義について

西田理事から、ミッションの再定義の現状について、資料に基づき報告があった。

#### (5) 平成26年度政府予算及び平成25年度政府補正予算について

西川理事から、平成26年度政府予算及び平成25年度政府補正予算について、資料に基づき報告があった。

#### (6) 国立大学法人等における剰余金の翌事業年度への繰越しに係る承認について

西川理事から、国立大学法人等における剰余金の翌事業年度への繰越しに係る承認について、資料に基づき報告があった。

#### (7) 平成25年度企画経営戦略会議について

学長から、平成25年度企画経営戦略会議での検討状況について、資料に基づき報告があった。

#### (8) 平成25年度第2回経営協議会における学外委員からの意見等への取組みについて

総務部長から、平成25年度第2回経営協議会における学外委員からの意見等への本学の取組み状況について、資料に基づき報告があった。

## 懇談事項

### グローバル人材育成と国際交流について

外間理事から、本学におけるグローバル人材育成と国際交流の現状等に関し、資料に基づき説明があり、意見交換を行い、委員から、次の意見があった。

- ・ どの大学とどのような交流を行うかということも大事だが、一番大事なことは英語の語学力である。語学力を身につけなければ、たとえばハワイ大学と連携してロースクールに学生を派遣しても、講義の内容がわからない。
- ・ 10年前に、琉球大学で、英語で授業を行おうという案があったが、教員に反対されたという話を聞いた。当時は、琉球大学が先陣を切っていると思った。
- ・ 他大学が外国語の教育に力を注いでいる。まず、学生の語学力をどうするかということをも真剣に考えていただきたい。具体的にはカリキュラムとかそういう問題にもなるので、大学として、どう取り組んで、英語教育をやっていくかということをも、早急に計画して実施しないと、文部科学省のグローバル人材育成推進事業の予算も取ることができない。全学一丸となって、努力していただきたい。
- ・ 「なぜ英語か」という議論を今するべきではない。さしあたって英語教育だけでもすぐに行い、それから、必要があれば、他の外国語もやればいい。
- ・ 琉球大学は、平成16年の第一期中期計画・中期目標で、すでにグローバル人材の育成について目標を挙げていた。これをうまくやっていたら、とくにグローバル大学になっていたはずである。
- ・ 琉球大学は、協定大学のことや、受け入れた学生についての公表はあるが、派遣した学生についてはデータがない。やはり相互交流しないと、琉球大学の学生のグローバル化はない。受け入ればかり強調するのではなく、琉球大学の学生がどれくらい外国に行っているかということアピールしないといけないのではないか。
- ・ 以前、理学部で英語の授業をしたことがあるが、学生はたいへん興味深そうに授業を受けていた。先生方が英語での授業に拒否反応を示したにしても、賛同する教員だけでも始めるべきで、大学の方針として押し通しても良いのではないのか。
- ・ アジアの国が台頭していく中で、沖縄の持っている地理的なポテンシャルが急激に高まっている。アジアの国々が経済力をつけると、沖縄にリゾートを求めてやってくる海外の観光客が増えてくる。それを受けて、県も、日本の市場からアジアの市場へ視線を向けているが、人材の育成がなかなか間に合わない。できれば、学生だけではなく、社会人の再教育もしてもらえるような体制があれば良い。そうすれば、琉球大学が、地域における知的拠点として、より強化されるのではないか。
- ・ 受け入れた留学生が、その後沖縄で働くという環境をつくっていくということも非常に大事だと思う。

最後に、学長から、3月31日付けで任期満了する委員、監事の紹介があった。